

5 - 9 静岡及び京都における重力の潮汐変化(1)

Tidal Variation of Gravity Observed at Shizuoka and Kyoto (1)

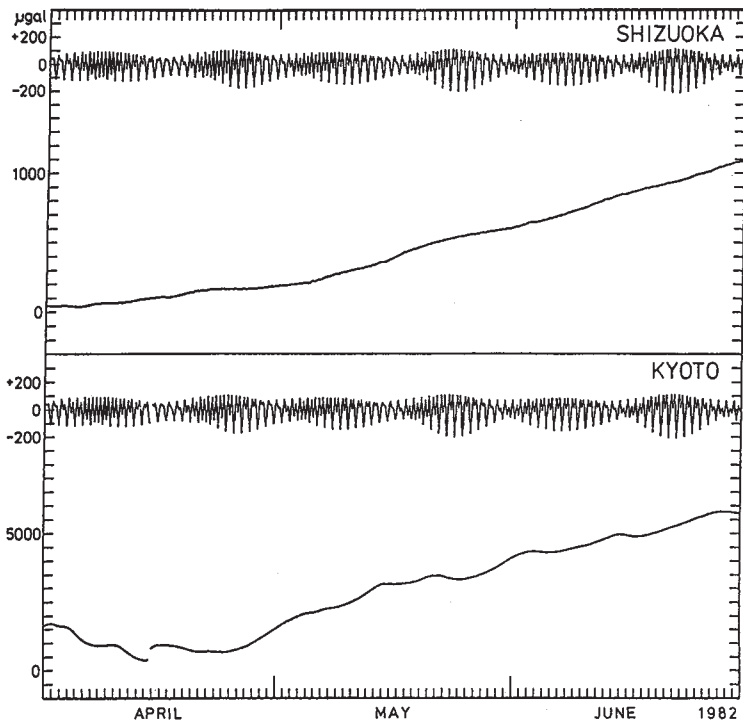
京都大学理学部
Faculty of Science, Kyoto University

静岡地方気象台地震計室において、ラコスト重力計D型による地球潮汐の連続観測を、1982年4月に開始した。また、京都大学理学部地球物理学教室においても、1980年9月以降、アスカニア重力計Gs - 15型による地球潮汐の連続観測を行っている。

これらの観測で得られたデータのうち、静岡については、1982年4月1日～6月29日および1982年6月1日～11月1日、京都については、1982年4月1日～6月29日および1982年6月1日～11月9日のそれぞれ2つの期間について解析を行った。これら2つの期間における潮汐成分と計器のドリフトを、第1図および第2図に示す。また、解析期間を30日とし、中央時刻を2日ずつずらした解析も行った。このときの主要4分潮 (M_2 , S_2 , O_1 、および K_1) の δ - factor を、第3図～第6図に示す。なお、これらの図中の破線は、上記の2つの期間について解析したときの δ - factor を示す。

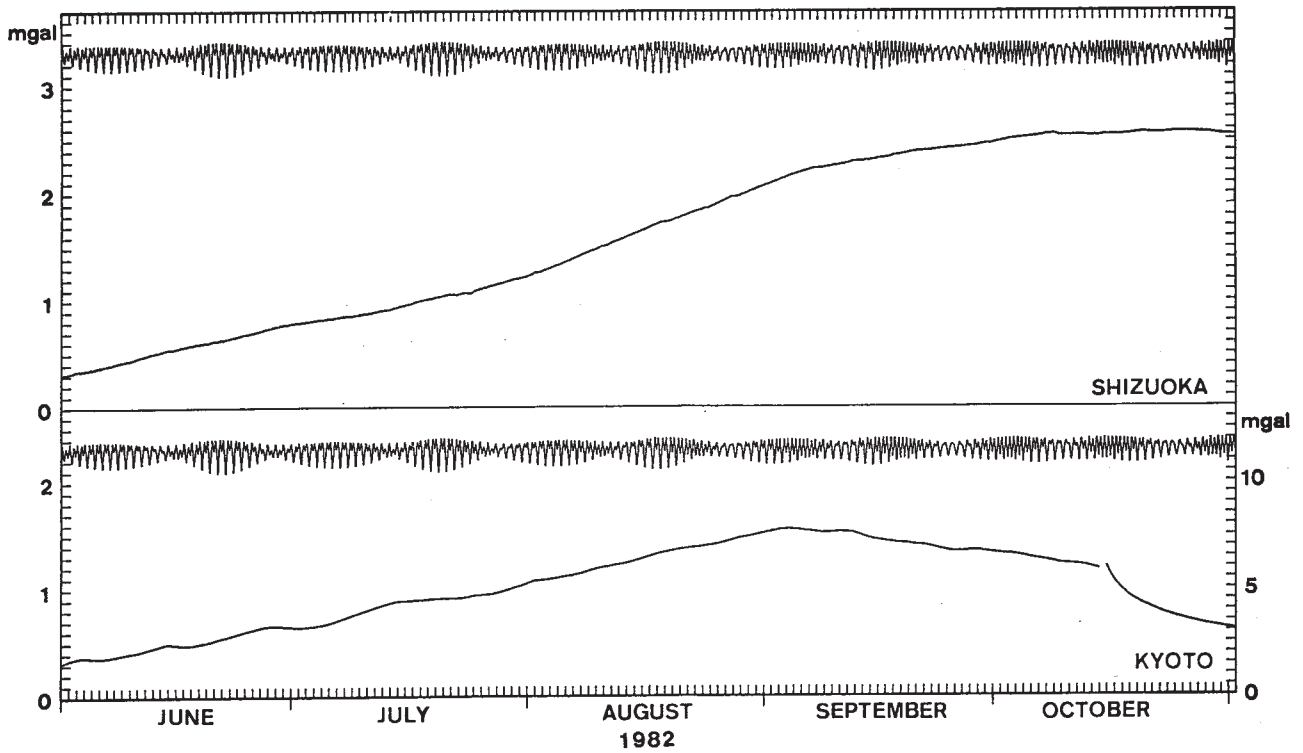
この結果から判断すると、振幅が最大で、かつ、最も信頼できると考えられる M_2 分潮の δ - factor は、1982年4月～10月においては、静岡および京都の2地点ともに、とくに有意な変化はなかったと考えられる。

(中川一郎・塚本博則)



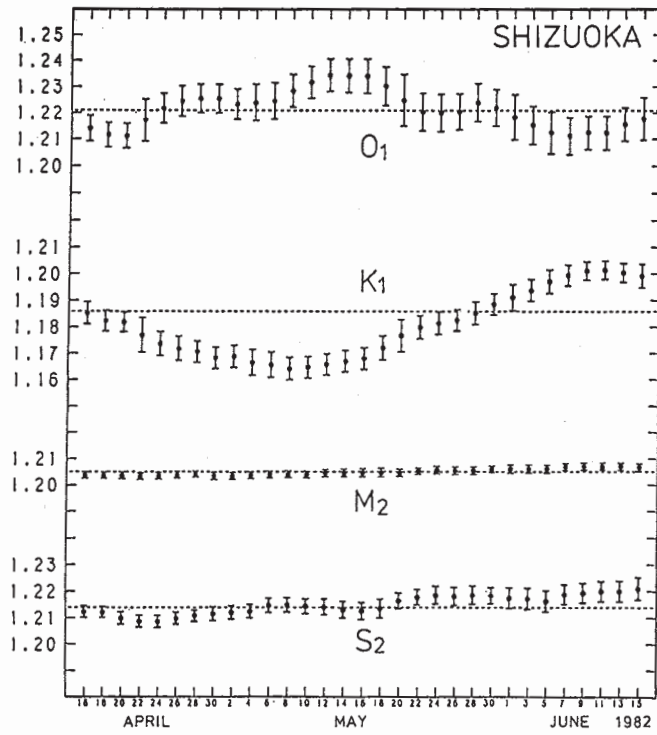
第1図 1982年4月～6月における潮汐成分と計器のドリフト

Fig. 1 Tidal component and instrumental drift during the period of April-June 1982.



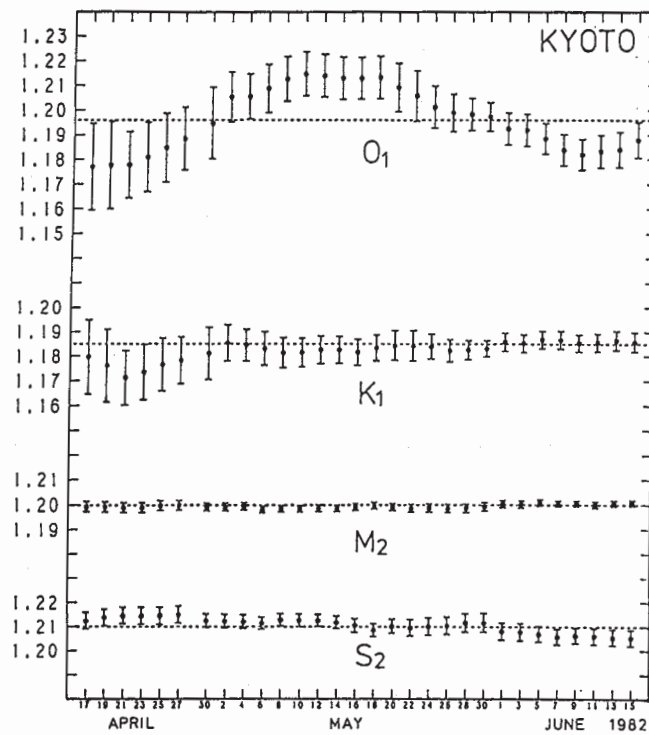
第2図 1982年6月～10月における潮汐成分と計器のドリフト

Fig. 2 Tidal component and instrumental drift during the period of June-October 1982.



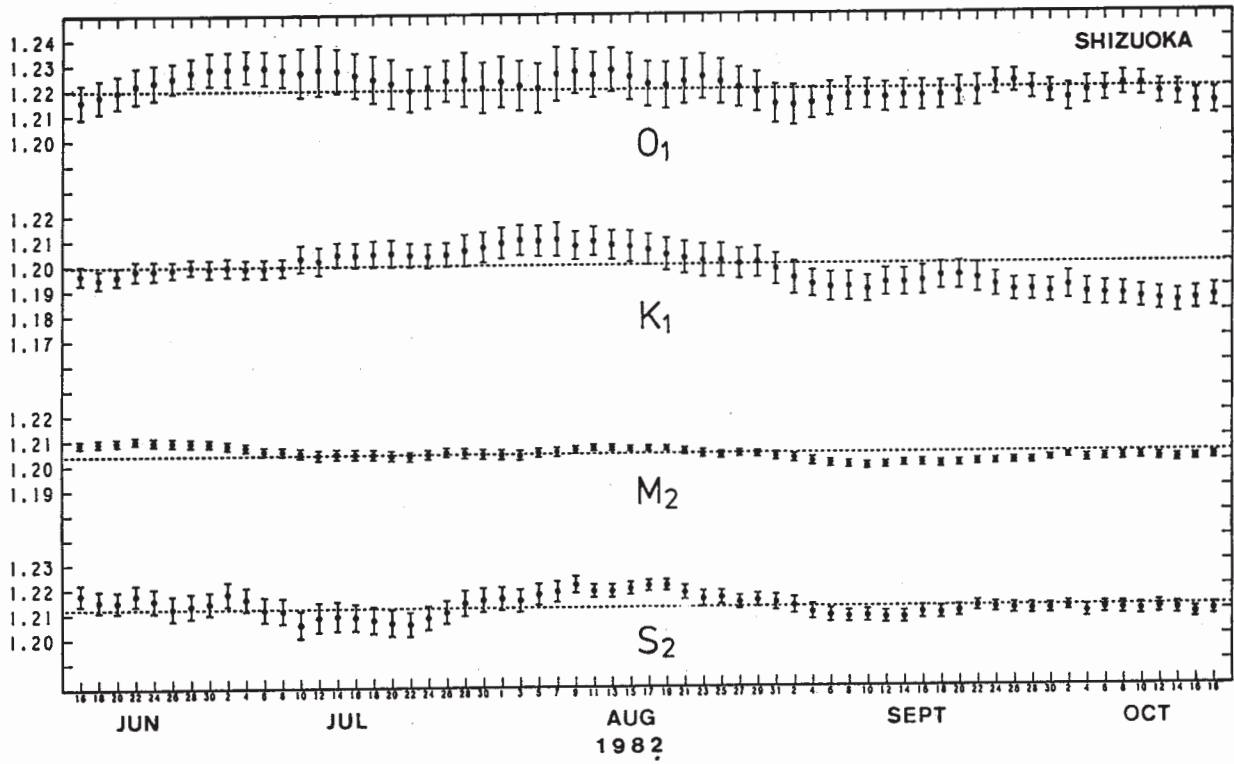
第3図 静岡での主要4分潮の δ -factor (1982年4月~6月)

Fig. 3 δ -factor for 4 principal tidal constituents at Shizuoka (April-June 1982).



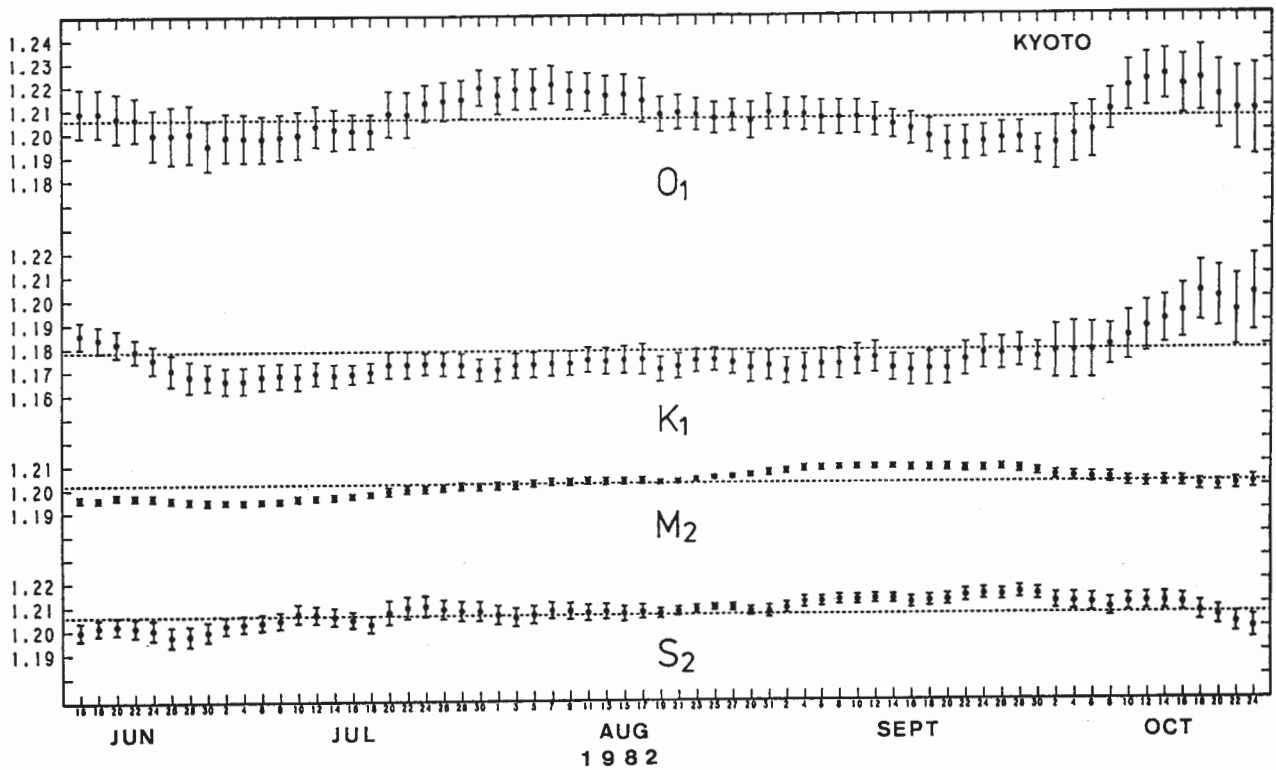
第4図 京都での主要4分潮の δ -factor (1982年4月~6月)

Fig. 4 δ -factor for 4 principal tidal constituents at Kyoto (April-June 1982).



第5図 静岡での主要4分潮の δ -factor (1982年6月~10月)

Fig. 5 δ -factor for 4 principal tidal constituents at Shizuoka (June-October 1982).



第6図 京都での主要4分潮の δ -factor (1982年6月~10月)

Fig. 6 δ -factor for 4 principal tidal constituents at Kyoto (June-October 1982).